

令和6年度第1回弟子屈町総合教育会議 議事録

日時 令和6年11月26日(火)11時00分～12時00分

場所 弟子屈町役場 3階 委員会室

出席者 徳永町長、ほか19名

協議内容及び発言内容(議事録要旨)

○定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第1回弟子屈町総合教育会議を開催いたします。

1. 町長挨拶

皆さまご多忙のところご出席いただきありがとうございます。日頃より町教育行政の推進にご尽力いただきありがとうございます。

いま弟子屈町で進んでいる川湯温泉街再生と中心市街地再構築の2つの変化のため、経済的には観光の再構築をどのように図っていくかといういろいろな課題あります。そういう観点で、教育委員の皆さん、また関係者の皆さんにも、そのような考え方の中でデジタル層の教育をしっかりと進めていってもらって、子どもたちを良い方向に運んでいければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

2. 報告

【報告第1号】奨学金償還支援制度の届け出状況について

説明:まちづくり政策課 佐々木係長

現在までの事前登録は、日本学生支援機構第1種の方が5件、同2種が2件、問い合わせ中の方が1件ありますが、受付が終わっている方は7件という状況です。ちなみに町の奨学金の利用者が未だ0件ということなので、1月もしくは2月に広報などで再度周知したいと考えております。

○質疑応答なし … 承認

【報告第2号】弟子屈町地域みらい留学の募集状況について

説明:教育委員会管理課 鈴木課長

今年度から実施しております地域みらい留学の現状につきましては、現在140校を超える全国各地にある魅力的な公立高校の中から、都道府県の枠を超えて、自分の趣味、

興味、趣味、関心に合った高校を選択し、高校 3 年間でその地域で過ごす国内進学プログラムでございます。北海道におきましては 30 校以上が参加しております、近隣では釧路高専高校、厚岸翔洋高校、霧多布高校、標茶高校、白糠高校、標津高校、美幌高校、大空高校、斜里高校などの各学校において参画しているところでございます。弟子屈高校では、今年度から全国募集を実施しておりますが、現在、弟子屈以外の地区からの応募はございません。

令和 7 年度の全国募集に向けた活動としまして、今年 3 月に生徒自らが出演した弟子屈高校地域みらい留学PR動画をはじめ、生徒と地域応援団が協力してオリジナルポスターやパンフレットを作成、札幌、東京での合同説明会に参加し、訪れた中学の 2 年生、3 年生や保護者に弟子屈高校の魅力や地域のPRを行っております。お手元にありますパンフレット等につきましては、その時に作ったパンフレットでございます。資料の 1 ページが地域みらい留学の現在の状況を記載させていただいております。

次に、道外からの生徒が参加したオープンスクールでは、高校での施設紹介、事業参加、給食や部活動を体験していただきまして、町職員による町内施設の案内、生活拠点となるテシカガホステルミサトの方で部屋や施設、料金などの説明を行っており、また公設民営塾では勉強のサポートや登塾した際の保護者への確認などについてご説明をさせていただいております。その際には、今回、旅費や宿泊費用の一部としまして上限 5 万円を助成させていただいております。

募集状況につきまして、オープンスクールで 2 名、神奈川県平塚市の中学 3 年生の男子、群馬県前橋市の中学 3 年生の女子が実際に来町しております。他にも高校に直接、鶴居村と札幌市在住の方から問い合わせが来ているとのことですが、実際に町にはまだ連絡がないということで、詳細については不明なところでございます。来町しました生徒、保護者に対しましてお話を伺ったところ、北海道への進学については興味を持っていただきまして、地域にも理解を示していただいております。ただし、他の高校にも興味があるということで、まだ弟子屈高校に来シーズンから来ますという確約はいただいておりますので、今後も募集状況、推薦等も含めて精査していきたいと思っております。

○質疑応答なし … 承認

【報告第 3 号】 町指定文化財検討状況について

説明: 教育委員会社会教育課 藤森課長

本件につきましては、昨年度の文化財専門委員会において、川湯ばやしと更科源藏資料の町指定文化財に向け調査研究すべきとの決議があり、今年度取り組んできたところでございます。

まず、川湯ばやしにつきましては、その原型となる福井県の重要無形民俗文化財である明神ばやし伝わる福井県越前町に、岩原教育長をはじめ保存会などの関係者が今月初旬訪問し、地元の教育委員会や明神ばやし保存会に、川湯温泉に伝承されたのちのこ

れまでの活動や町文化財指定の動きなどを説明してきたところでございます。越前町の教育長さんからは、50年以上前に伝えたものが大切に保存されていることに感動したとの言葉をいただくとともに、これからの相互交流についても話が及び、川湯ばやしの伝承と振興、発展のため、ぜひ進めてまいりたいと考えております。文化財指定に関しては、年度内の指定に向け、年明け2月頃、文化財専門委員会への諮問、答申、教育委員会での決定など、関連する事務処理を進めてまいります。

なお、指定後の新年度につきましては、保存会の運営や活動に対する補助金を、すでに文化財に指定されている2つの獅子舞と同額まで引き上げ、支援の拡充を図ってまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

一方、更科源藏資料につきましては、これまでの文化財にもない形状のものであり、また内容も原稿類や調査メモ類など多種多様であるため、文化財としての取り扱いが可能なのか等の調査を行っているところでございます。新年度におきましても、引き続き調査を行い、今後の対応について検討してまいりたいと考えております。

以上、簡単であります。町指定文化財検討状況についての説明とさせていただきます。

○質疑応答なし … 承認

3. 議題

【議題第1号】令和7年度教育関係重点事業について

○学校教育関係

説明:(1)～(3)、(5)教育委員会管理課 鈴木課長
(4) 学校給食センター 坪井副所長

(1)一人一台端末の機器更新について(事前資料No.1)

コロナ禍におきまして、国のギガスクール構想により、当町でも、令和2年度、3年度において、小中学校の児童生徒及び教職員全員に、タブレット端末ipadとネットワークの整備を実施したところでございます。現在、ギガスクールは第2期、いわゆるネクストギガと言われるものに突入しており、整備された端末の更新が全国各地で今年度から始まっており、来年度ピークを迎える予定でございます。当町においても、経年劣化によるバッテリーの消耗や、今後OSのサポートが終了される見込みから、令和7年度に機器更新を行い、使用開始は8年度を計画しているところでございます。

(2)弟子屈高校の魅力化と地域みらい留学の推進(事前資料No.2)

弟子屈高校への入学者数は今年度24名と昨年度16名より増加しているものの、地元進学率は36.9パーセントとなっており、今後の入学者数を考えると厳しい状況に

あります。弟子屈高校では、独自の魅力化として探究授業に力を入れており、今年度より、同事業による地学協働コーディネーター、川上氏、萩原氏を配属し、地域と学校の連携、メディアを使った情報発信による高校の魅力化を進めております。

来年度の地域みらい留学については、今年度同様、合同説明会やオープンスクールなどを実施、また、2泊3日で弟子屈町での生活を体験してもらう「おためし地域留学」を実施し、全国募集につなげたいと思っております。

(3) 探究的な学びの充実に向けた取組について(事前資料No.3)

現行の学習指導要領では、学習者である子どもを主体とした事業展開が求められております。その中において、子供の主体性を育む取り組みの中核となるのが、小中学校の総合的な学習の時間であり、高等学校の探究的な学習の時間です。本町では、昨年度、釧路教育局の依頼を受け、弟子屈中学校と弟子屈高等学校が総合や探究学習の取り組みについて、実践発表を行ったところです。さらに、各学校の取り組みについて一覧にまとめ、取り組みの見える化を図ったところでございます。

来年度は、新たに探究的な学習の時間に関わる実行委員会を立ち上げ、小中高の連携をさらに進め、弟子屈町の探求的な学習の取り組みについて町外にも広くアピールできるようパンフレットにまとめるなど、さらなる内容の充実を図ってまいります。

(4) ふるさと給食の継続した取り組みについて(事前資料No.4)

これまで、地元食材を使った給食については、平成25年度から、摩周和牛やおっぱいミルクなど北海道中山間地域等直接支払い制度を活用し、摩周湖農協を通じて学校給食に提供してきたところでございます。このようなことから、学校給食で地元食材を活用することにより、食育の推進を図るとともに地元食材を知ること、地域の歴史や文化、産業などに対する学びを深め、ふるさとへの愛着を育むことを目的としております。主なふるさと給食の実績は下記の表となっており、上段が令和5年度で、下段が令和6年度の実績となっております。昨日は、摩周和牛改良組合から摩周和牛の無償提供があり、弟子屈中学校で報道機関等を集め、試食会を実施したところであります。また、今後の予定として、来月にはタウンラボで製造されている豚まん、さらには2月に摩周ルビーなど地場産物の提供を予定しております。

今後のふるさと給食への取り組みとしては、健康こども課が例年実施している食育アンケートにおいて、弟子屈町で作られている食べ物は知っていますかの問いに、9割以上の児童生徒が知っているとの回答。その中でも摩周メロンが9割以上と最も知られておりましたが、トウモロコシや摩周和牛、特に弟子屈ポークや摩周ルビー、アイスなどについては3割程度と、知名度が意外に低い結果でありました。地場産物が出始める時期の8月から9月をふるさと給食月間と位置付け、児童生徒により一層、地場産物を知ってもらい、食に対する関心と地元愛を深める取り組みを継続していきたいと考えております。

(5) 川湯地域における小中学校の在り方検討(事前資料No.5)

10月30日に開催されました移動教育委員会でのPTAとの地域懇談会におきまして、今後、川湯地区における小中学校の在り方について意見が出されました。川湯地区における児童生徒の意向につきましては、資料5にありますとおり、川中では令和10年度から1、2年生が複式学級となる見込みでございます。また、川湯小学校におきましても、令和12年度につきましては、在校生が現在の31名から約半減となる16名となる見込みです。今後、義務教育学校や中間一貫校、中学校の統合など、様々な選択の中で将来を見据え検討する必要がございます。校長会の視察研修におきましても、昨年は斜里町知床ウトロ学校、こちらの方は平成28年4月に義務教育学校になっております。今年度につきましては、北見市のおんねゆ学園、こちらの方は令和2年4月に義務学校教育になっております。これらの学校での研修結果を、今後検証を行う予定となっておりますので、その結果を踏まえて、今後検討していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○社会教育関係

説明：教育委員会社会教育課 藤森課長

(1) 町営野球場の計画的な改修について(事前資料No.6)

1つ目の、町営野球場の計画的な改修についてであります。本件については、本年第2回定例会の一般質問で、町営野球場の施設整備について5点ほど質疑があったものであります。その中で、駐車場の拡張については、すでに隣接する元鎧別公営住宅敷地を利用することで調整は済んでおります。残る4点のうち、バックネット裏の本部建屋の改修を除く、施設利用者に直接関わる3点につきまして、来年度、その整備に取り組んでまいりたいと考えているところであります。なお、本部建屋につきましても、8年度で整備要望の予定をしておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、資料7ページの写真をご覧いただきたいと思っております。まず、3塁側の防球ネットの設置であります。下段の写真の通り、すぐ横の道道を一般車両や貨物関連などの車両が数多く往来しており、実際に道路に飛び出た打球が通行中の車輦に当たり、損害を与え賠償する事案も発生するなど、安全面も含め、3塁側への防球ネットの設置は急務であると考えているところであります。

次に、球場付属トイレの整備についてであります。既存のトイレは、8ページの資料写真の通り、老朽化に加え、男女共用ということもあり、かなり厳しい環境となっております。ここ数年、これまでの中学生や社会人チームの練習や大会に加え、少年野球の大会も開催されるなど、施設の利用頻度が高まりを見せる中、衛生環境や利便性の観点から、下水道に接続した適正規模のトイレの整備を実施させていただきたいと考えております。

次に、写真にはありませんが、観覧席の設置についてであります。利用環境の向上を図る観点から、現状の地形を生かした簡易的な観覧席の整備を考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(2) 部活動地域移行の段階的推進について(事前資料No.7)

令和5年度より取り組んでいる中学校部活動の地域移行について、初年度となる昨年は、アンケートの実施や研修会の開催など、地域移行を進めるにあたっての準備を行い、今年度は体制整備として、関係機関、団体、学校などによる検討協議会を立ち上げるとともに、現在部活動で行われている種目と同じ種目の少年団や協会に地域移行を受けることが可能かどうかのヒアリングを実施したところであります。新年度については、そのヒアリングで対応可能との回答を得たバドミントン協会による川中学校羽球部への指導を、資料9ページの資料の7年度欄の2番に記載の試行モデル開始と位置づけるとともに、指導者育成の観点から、指導者資格の取得に対する財政支援を行うこととし、これらにかかる関連経費の予算措置をお願いしたいと考えております。

(3) 図書館の移転に向けた準備について(事前資料No.8)

完成後の複合施設へ移転となる図書館につきましては指定管理による運営となりますが、その運営にかかる設備などは全て町で準備することとなっております。これら対象となる設備のうち、費用が高額となってしまうのが図書館バスであります。図書館バスは、高齢化の進行が顕著な本町にとって、なかなか図書館まで来られない遠隔地にお住まいの方々の生涯、学習活動に対する支援として大変意義のある図書館サービスの1つであり、新しい施設の移転後も運営事業者により引き続き実施していきたいと考えております。

ただ、現在使用している車両は、平成5年車で31年が経過し、重量の重い図書を乗せ、これまで20万キロを超える距離を運行していることから足回りが老朽化していることや、資料の10ページの写真のとおり、ボディやフレームの著しい劣化に加え、車内の空調は、エアコンもなく、その機能も弱まっているため、昨今、厳しい気象状況では、利用者はもちろん、長時間業務にあたる職員の環境も非常に厳しくなっており、車輛の更新は急務であると考えております。

(4) アイヌ民族資料館改修の推進について(事前資料No.9)

現在、令和3年度に策定した屈斜路コタン地区アイヌ文化等拠点整備事業基本計画に基づき、多機能型生活館の建設が進められていますが、続く整備対象となるアイヌ民族資料館につきましては、資料の12ページの年次計画の通り、今年度、改修にかかる基本計画を策定しているところであります。新年度は、令和8年度の工事着手に向け、実施設計を策定するとともに、資料館付近の湖岸の侵食対策工事も実施したいと考えているところであります。周辺整備の外構やチセの復元など、すべての整備が完了するのは令和9年度を予定しており、現在における総事業費の試算額は、人

件費や資材の急激な高騰などにより、設計業務を含め約 6 億 5000 万円程度となっているところであります。今後、計画に基づき、関係各課、特にまち課との連携を密にし、円滑な事業遂行に努めてまいりますので、よろしく願いいたします。

以上、簡単ではありますが、社会教育関係にかかる重点事業の説明とさせていただきます。

教育長：今、来年度の重点ということでそれぞれ申し述べました。限られた予算、厳しい予算だということもわかりますけども、好調なふるさと納税を寄付してくれた人は、子供たちへの思いも、きっと教育に対しての寄附という思いも、きっと多かれ少なかれあると思います。ぜひその辺のことも理解していただきたい。タブレットの関係も、国の補助事業、3分の2の補助金がありますから、それらも利用しながらなるべく一般財源が多額にならないようなことも努めてやっていきたいと思っていますし、高校の地域みらい留学についても、外部からの人も大事かもしれませんが、やっぱり地元の中学生、いかに6割、7割の子どもが弟子屈高校に進んでもらうかというようなことも含めて、中高連携も含めて取り進めていきたいなという風に考えているところであります。それから、川湯地域の小中学校のあり方っていうのを今回初めて出させていただいた。これは今川湯地区の温泉街の再生とも関わってくるので、見極めながら、やっぱりその小中学校化にした方がいいのか、新たに立派な校舎を小中学校、義務教育学校を作ったらいいのかも含めて、川湯の再生も横目に見ながら進めていきたいと思います。川湯が再生されれば、相当数の子供たちが増える可能性も十分にあるので、地域の人も交えながら今後の検討を進めていきたいと思っています。

それから、社会教育の関係では、球場の関係を議会でも何度も質問されているので町長も認識されていると思っています。アイヌの資料館の改修については、今、生活館改修もやっと軌道に乗っていますから、地域でいろんな問題もありますけれども、なんとか生活館の改修を進めて、通年営業、特に今年、ここ最近、外国人の方が相当数来ていただいていますから、なんとか通年営業に向けて、アイヌ交付金もうまく活用しながら、2~3年で整備していきたいという風に思っていますので、よろしく願いします。

○各委員からの意見

吉田委員：ふるさと給食について、昨日、学校給食に摩周和牛改良組合から摩周和牛を提供させていただきました。この肉は、通常の摩周和牛と違って、平成25年に姉妹都市交流で鹿児島県日置市から来たかねはるを、今年度、繁殖牛を引退するという事で、肥育してもらい、先月屠畜して、テシカガタウンラボに搬入しまして、昨日の朝、給食センターで調理し、昨日、ハヤシライスとして学校給食で500食程度、子供たちに提供させていただきました。自分も摩周和牛改良組合の組合長として参加させていただきました。子供たちには大変好評で、試食にきた大人の方からも美味しいという声をいただきました。今回は、摩周和牛改良組合から寄贈という形で寄付させていただいたのですが、例年通り、来年度以降もふるさと給食を継続していただくためにも、予算付けしていただきたいというのと、先ほど説明のありました「食育アンケート」で3割程度と知名度が低いという

ことがありましたので、給食を食べる前に 1 度レクチャーした方がいいという話をしまして、そのあとにふるさと給食を食べた方が子供たちへの知名度が高まるのではと、校長先生とも話していました。それらも合わせて、来年度以降もふるさと給食を続けていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

菅原委員：学校関係、教育関係の弟子屈高校の魅力化ということでお願ひをさせていただきます。報告第 2 号でも事務局の方から詳しく説明がありましたので、あまり申し上げることはありませんけれども、吉田委員からあったように、昨日も摩周和牛の給食を弟子屈高校にも無償で提供していただいたことにまずお礼を申し上げます。そして、この資料にもあるように、小学校、中学校と連携して弟子屈高校の魅力化の発信、もっと言えば、認定こども園の頃から、小学校、中学校、そしてこの弟子屈の魅力と、そして弟子屈高校に通いたいと思えるような地元愛の思ひを、もっともっと発信できればと思っておりますので、令和 7 年度以降も予算措置の方、お願ひいたします。以上です。

宮田委員：探求的な学びの充実に向けた取り組みについて、探究的な学び、かつては総合的な学習の時間。目的は子供たちが自分で課題を立てて、それを主体的に情報収集と分析をして、さらに発表するところまで持ってくる。インプット、アウトプットを主体的に行うという活動を通して、生きる力を身につけて社会に出ましようってところが目的としてあると思うのですが、振り返ってみると、その総合的な学習だった時間、期間も含めて、小学校も中学校も高校もそれぞれすごくいい学びをしてきたと思ひます。ただ、それがせつかく、弟子屈という小さな町で学んでいることを強みにしきれてないというか、体系的に積み重ねて来られなかったのだと思ひます。例えば小学校でやったことも中学校でやっているとか、そうではなくて、せつかくここで 1、2 年学ぶことを強みに変えるためにも、体系的に総合的な学習とか、さらに集大成として高校での探究的な学びにこう積み上げた結果、集大成を迎えられるような体系的な学びができるように教育委員会も考えていきたいと思ひているので、ご支援いただければなと思ひます。以上です。

金井委員：図書館の移転に向けた準備についての中で、特に図書館バスの実際の運転手としての運行状況を報告します。私も図書館バス運転手をやる前は、図書館バス、こんなに利用あるのかなと思ひていたのですが、実際に運転手で行きますと固定客が非常に多くて、特に川湯地区の方に行きますと、本町に行くのに車がないとか、日中忙しくて行けなくて、来てもらって助かるという意見が非常に多いです。また、川湯温泉病院の職員の方が最近増えてきて、看護師さんとか 事務の方は使うようになっています。認定こども園まじゅうでは、年長、年中、年少の全員がバスに乗って、自分で実際に背表紙を見て本を選ぶということをやっております、特に今年の秋からはですね、年少以下のうさぎ組、もう本当によちよち歩きの子供たちも利用するようになってきました。大体そこで 70~80 人の利用がありまして、川湯保育園でも、年長さんだけなのですが、全員バスに乗って自分で本を選ぶという活動をしています。あと、美留和小学校では今年の秋からですね、図書係というのを作りまして、10 冊図書館バスから本を選んで、それは自分が読む本じゃなくて、学校みんなに読んでもらうために 10 冊選ぶというすごく教育的

効果の高い活動を始めまして、図書館バスがあるからこそできることだと思います。あと、川湯地区で小学校1年から全く登校できない不登校の子がいるのですが、その子に関しては、図書館バスに懐いてくれているというか毎回来てくれています。この前も、町の中で赤い実がすごく道路際に多く実っていたのですが、あの赤いは何なの？というような質問をしたり、図書館バスがあるからこそその交流だと思います。ボディの方に関してはですね、藤森課長に言われたように、エアコンはないのは当たり前なのですが、バスの後ろに全部の本棚を背負っているのです、窓が開かないのですよね。ですから、全く空気が抜けなくて、保育園の先生方も一緒に児童と入った時には、「暑いですね、このバス」と言って、非常に大変ですねっていつも言われるのですが、ぜひ、倒れる前に、熱中症になる前に、新しい車輛を入れていただければと思います。特に、車体だけじゃなくて、その中を改修しないといけないため時間がかかるので、ぜひ良いお返事をいただきたいなと思います。よろしく願いいたします。

町長: それでは、私から何点かについてお伝えします。まず、川湯の関係。今、川湯の再構築をやって、星野グループが、廃屋ホテル解体跡地に入ってくる。それからまた、ラビスタがいなせランドに、約50ヘクタールのところでの建築業者も決まっています。構想的なものも決まっていますから、これらも合わせまして、令和9年、10年までにはできてきます。そういうことになれば、規模的にも100億を超えるような大型事業ですので、そういうものも含めて、これから川湯の再生がどうなっていくか。それから、今皆さんもご承知のように、橘屋や太平洋炭鉱の寮の湯布院、それから郵政の望岳荘という寮だったところ、それからまつも荘、合計で約1ha近くをもう買収していますので、あれらもマスタープランを作って川湯の再生に向けて進んでいく。できれば風呂だとかラグーン的なものもありますけども、ホテルももう1つ2つなかったらキャパ的には足りないのではないかと思いますので、そういう流れがこれから出来てくるのではないかと思います。

そういうものも含めると、相当数が川湯地区の入り込み人口、さらには就業者の人口が増えてくる可能性があるということで、これを見ながら対応していきたい。私は、小学校でも中学校でも町側からこの学校辞めるよということは一切言うべきでないと思っています。川湯小学校と川湯駅前小学校の合併の時にPTA会長やっていて、両校の人たちで1つになろうということで合併した経験がありますけれども、そういう形をどう作るか、5人でもいいからやっていくのか、ということを考えていきたいものだなと思っています。今、中学3年生のうちの孫が小学校6年生の卒業式の時、卒業生が1人でした。1人だけでも、5年生の9名の子供たちと本当に卒業生のような形で、涙を流して別れるようなああいう光景を見たら、1人だからダメだということにはならないのではないかと、つくづく思いました。本当は弟子屈町一校にしたいぐらいの気持ちはあったのですが、ああいう現場を見ると、必ずしもそれがいいか悪いかというと、そういうことにはならなかった。そしてまた、今の社会現象で闇バイトなど、いろいろなことが起きています。子供たちがどうしてはまってしまうのか。我々の団塊世代も含めて責任があるのではないかなと、つくづく最近思いますので、これらにつきましても、弟子屈町の学校教育をしっかりと支えていかなければならないと思っています。

それから、吉田委員の言った地元食材については、私も相当数、摩周そばなどが始まって以来、全ての町特産品に携わってきました。くり〜む童話と摩周湖のあいす、牧之瀬牧場のアイス、さらにはワインやチーズ、牛のおっぱいミルク、デザート、等の乳製品、温泉熱を利用したマンゴーやいちごの栽培、そういうものも含めて相当数いろいろなものがあります。まだまだ弟子屈町の食材ありますので、そういうものを、教育長にも伝えていきますけども、町内のアイスを年に1回か2回、子供たちに食べさせてあげよう。そして、割高になってもその負担を町の予算の中で出してあげて、地元の食材を味わう。こういうブランド力のあるおいしいものが、弟子屈町にあるのだよっていうことを子供たちの意識にきちっと植え付けていく。できれば和牛とチーズとワインがあって、そういう洋食のものを食べられるような、小中学校時代にナイフとフォークで食べることを学べるようなこととしていくべきではないか。さらには、その後のデザートには、メロンがあったりマンゴーがあったり、アイスがあったり、そういうものを弟子屈町の子供たちだから地元食材を味わえる。そういったことには予算が若干かかってもいいのではないかと思います。

それから、探求の関係で宮田委員さんからもありましたけども、弟子屈町には素晴らしいものがたくさんあって、カルデラの湖の大きさを屈斜路湖が世界第2位で日本では最大、インドネシアのカルデラ湖が世界1位。私は阿蘇が日本1だと思っていました。そこから流れる一級河川の釧路川。日本でただ1つ、ダムと堰のない川、四万十川もないと思っていたのですけども、小さい堰があるそうです。私たちが子供の頃には酸っぱい水でトゲウオとザリガニしかいませんでしたが、今ではイトウも相当数いる。産卵場所も5〜6カ所知っています。さらに紅鮭、チップ、ヒメマスが春先のミジンコが足りない時に、ワカサギと争って太平洋に下がっていきます。もうすでに終わる時期ですけども、真っ赤な紅鮭となって、何十匹、何百匹単位で屈斜路湖に来て産卵しています。更に尾札部川とエントコマップ川に来て散乱している。そこにヒメマスも一緒になって産卵をしている状況。これは皆さん知らないと思いますけども、現実起きています。こんな素晴らしい湖で、釧路川があって、カルデラ湖があって、そして湖があるから紅鮭まで登ってくるような、素晴らしい自然がある。

そしてコタンコロカムイ(シマフクロウ)、実際に巣箱を設置してもらったところに、川湯に6羽います。令和2年ぐらいに2羽。令和3年に2羽。今年も工事のため391号線の上に移動して、そこにまた2羽入って全部で6羽。なぜ定着しているのかという餌があるからです。巣箱には、大きなニジマスが入っていました。ニジマス、イワナ、アメマスとかがいて、コタンコロカムイが、弟子屈のいろいろなところで営巣するようになっていきます。そういう素晴らしいことを、こういう情操教育の中で、大自然の素晴らしさと合わせて伝えていければと思います。また、硫黄山には安田鉱山鉄道があって、明治の時代に手稲-小樽間にSLが走った時に、川湯から標茶までSLが走っていた。今、釧網線の一部になっていますけども、そういうことも含めて、弟子屈町のいいことを全てこの教育の中にはめ込んでいってもらえたらありがたいと思います。

それから、図書館バスについて、本って意外と重たいです。重なると重いものだと思うので、多分負担がかかっていると思います。そして、下が塩カルなどで錆びていると思います。予算のある限り整備する方向に持っていくべきだと思いますので、理解を願いたいと思います。

それから、アイヌの関係。やっとコタン地区の多機能型生活館、屈斜路コタンアイヌ民俗資料館の建築が決まりました。本当に時間がかかりました。令和4年から始めて、令和6年でやっと思決まりました。今年度中には生活館が完成すると思います。来年度は民族資料館。バリアフリーになって、そこでアイヌの方々のスペースを一緒に作るようにしていますので、ご理解願いたいと思います。

それから、先ほどの仁多獅子舞とか川湯明神ばやしとかいろいろなことがありますけども、文化的なものもしっかりと根付くよう、誰かが守っていく、継続することが力になると思います。私からは以上です。

3. その他

○令和7年度当初予算などについて

説明:まちづくり政策課 三上課長

令和7年度予算編成方針について、資料配布させていただいております。先日行われた職員向け説明会の時の資料となっております。詳細は申し上げますが、こうした方針のもと新年度予算編成を行っております。後ほどご一読いただければと思います。

総合教育会議はこれで終了となります。今後、緊急的な事案が発生した場合、急遽皆様にご案内することもありますので、その際にはご協力をお願いいたします。以上で令和6年度、第1回総合教育会議を終了いたします。